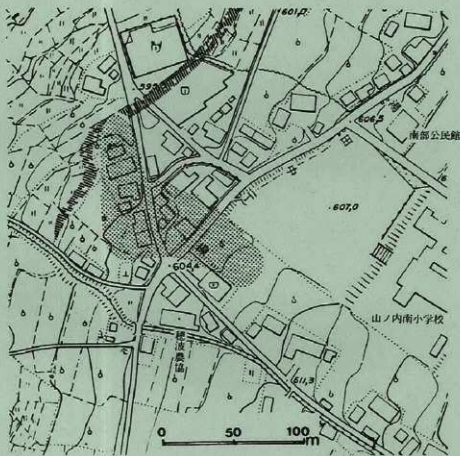


# 佐野遺跡第六次発掘調査報告書



昭和 56 年 3 月

長野県山ノ内町教育委員会

## 序

佐野遺跡はふるさとの歴史を解明する資料として誠に重要であります、今回、山ノ内町穂波農業協同組合が事務所を改築するにあたり事前に緊急発掘調査（第六次）を実施し記録保存を図ることにしました。

発掘責任者には前教育長村上富吉氏、顧問金井喜久一郎先生、調査団長には永峰光一先生、団長代理田川幸生先生をはじめ多くの考古学同好の先生方、地元佐野老人クラブ、穂波農協関係者等皆様のご協力を得て昭和55年6月21日から6月27日まで発掘調査を実施しましたが、次に掲げるような成果をおさめる事が出来ました。

これらの資料は極めて重要であり学界に寄与するところ誠に大きいと思われれます。今回の緊急発掘調査に関係された多くの方々の努力に心から感謝を申し上げ序といたします。

昭和56年3月

山ノ内町教育長 田 中 満

表紙 佐野遺跡附近図（範囲確認調査報告書より）  
第六次調査は、穂波農協敷地（地図中央下）

## はじめに

佐野遺跡の発掘調査は、昭和33年7月の第一次以後、同34年7月・同50年8月(範囲確認調査)・同52年7月・同54年3月・そして今回の昭和55年6月の調査を含めると六次に及ぶ。よって今回の調査を、佐野遺跡第六次発掘調査と呼称することにする。

この調査は、遺跡の中心部に隣接する穂波農協本館の老朽化にともない、新築することになったが、建築物や道路舗装のため、遺跡の存在が不明であった。そこで県教委文化課・町教委・農協の三者の協議により、農協本館を新築する前に発掘調査をすることになり、調査団が結成された。

結成された調査団は、次の通りである。

発掘責任者	山ノ内町教育長	村上富吉
顧問	山ノ内町文化財専門委員長・長野県文化財専門委員	金井喜久一郎
調査団長	国学院大学文学部講師・日本考古学協会員	永峯光一
団長代理	山ノ内町東小学校教諭・日本考古学協会員	田川幸生
調査主任	中野市文化財調査員・長野県考古学会員	横原長則
調査員	山ノ内町文化財調査員・長野県考古学会員	山上右八
	山ノ内町文化財調査員・長野県考古学会員	畔上秀雄
	中野市文化財調査員・高水考古学会員	池田実男
	中野市七瀬・高水考古学会員	藤沢昭夫
事務局	山ノ内町教育委員会事務局長(現教育長)	田中満
	山ノ内町教育委員会社会教育係長(現同和教育係長)	坂口孝雄
協力	山ノ内町穂波農業協同組合	
	佐野遺跡保存会 佐野長寿会	

発掘調査は、6月11日から始め、6月27日に修了した。この間、地主穂波農協の絶大な協力をいただきました点、格別の御礼を申し上げます。また、地元佐野遺跡保存会・佐野長寿会には、直接発掘に参加協力いただきました。協力をいただいた氏名を列挙して御礼にかえます。

望月国治・兒玉留治・兒玉きん・滝沢喜三郎・兒玉万吉・渡辺はる・宮崎 栄・古橋己喜雄・中島義近・高相高国・宮崎 正・富沢千代枝・宮崎実治・宮崎祐治・山本繁才・望月つるの・湯本 進・XXXXXXXXXX・兒玉恒春・宮田新左エ門・村上初雄・野崎 至・飯沼清造・山本久太郎・兒玉やす・高相まつ・兒玉正夫・兒玉てい子・駒津栄茂・中山清文・宮崎九市・山本多賀造・宮崎仲次・大山茂・望月国治・小島賢太郎・高相まつ・望月利雄・山本盛一・山本長太郎・山本正一・山本広行・土屋 武・内田万治郎・内田まさ・小島春雄・高相 守・湯本しげを・宮崎武志・麗沢常元

以下報告書は、田川幸生・横原長則・池田実男の調査員及び、山ノ内町教委藤原正幸局長・社会教育係長阿部宗平が協力編集にあたった。

(田川幸生)

## 調 査 日 誌

発掘に先立ち、山ノ内町教育委員会は、調査団長永峯光一先生の指示をあおぐ。「特に縄文晩期の集石遺構が検出されたら、慎重に調査を進め、直ちに連絡するように」との指導を受ける。

6月11日晴 午後5時より山の内町公民館に於いて、穂波農協事務所改築に伴う、第六次佐野遺跡緊急発掘調査の打合せ会と、結団式を行う。出席者村上教育長・田中事務局長・坂口係長・穂波農協保倉参事・田川調査団長代理・横原調査主任・池田調査員の以上7名。

6月20日曇 中野市市川商會に依る、バックホーを使用した基礎コンクリート級し作業監視のため、坂口・横原・池田が出動する。午後町役場山本囃託と共に平板測量を実施する。三沢川の乱流と数回に亘る建物の建設の結果、出土遺物の可能性少なきを直感する。

6月21日曇 午前中グリット設定作業を行う、第一次発掘地点に近い北側附近を重点に設定する。午後佐野長寿会と佐野遺跡保存会の応援・努力提供を得て発掘開始する。それに先だち関係者全員出席して、池田調査員の先導により仏式にて発掘祈願祭を行う。A<sub>1</sub>~D<sub>1</sub>地点をバックホーにて表土剥ぎ、(建物の建設の時の埋め土の部分)作業実施する。その他特記すべき遺物の出土なし。

6月22日晴 発掘続行、午後A<sub>3</sub>~A<sub>7</sub>、D<sub>3</sub>~D<sub>7</sub>地点の表土約70~80cmをバックホーにてとり除く。C<sub>1</sub>地点より木炭片、人骨片、元壺通宝一枚を得る。中世火葬墓の遺物と思われる。その他佐野式土器の細片(無紋)2個を得る。

6月23日晴 前日表土を除去したA<sub>3</sub>~A<sub>6</sub>、D<sub>3</sub>~D<sub>6</sub>地点の発掘。下方砂礫層の上に集石遺構あり。F<sub>1</sub>~F<sub>3</sub>地点にも巾60cmの集石列が現われる。但し遺物の出土が伴わずに年代の把握に不明の点が多い。

6月24日晴 横原・池田・藤沢・で集石遺構の測図作業を行う。午後県教委の白田指導主事が視察に見える。

6月25日曇 測図作業続行、午後7時迄作業する。

6月26日小雨 測図作業とM<sub>5</sub>、M<sub>6</sub>、G<sub>3</sub>地点の掘り下げ土層調査、下戸は砂礫層にて遺物の出土無し。

6月27日曇 午前中集石列の掘り下げ調査。集石が土と固めた様な状態で砂礫層に落ちている。断面はほとんど水平に落ち込んでいて、C<sub>4</sub>地点で浅いU字形を示した程度。C<sub>3</sub>地点で石鏡1個を得る。午後断面図作製、等高線測量を行う、午後7時より山ノ内公民館にて今後の打合せ会が行われた。

6月30日晴 永峯光一団長来町する。佐野遺跡発掘現場を視察し、教育委員会と協議する。

(横原長則)

## 遺 構

今回の第6次の発掘調査地は、国指定地の南約30mの徳波農協改築予定地である。ここは北側に県道中野・角間線があり、西側は県道湯田中・菅線がある。さらに南側は三沢川に囲まれた略三角形をなす宅地である。地字は大宇佐野字畑中1,167番地、面積は約1,200㎡あり、西方に向ってゆるい傾斜地である。

この傾斜地は東方を削り取り、西側を埋め立て、平地状にし、南側の氾濫箇所を石垣で止めている。また西側の県道ぞいの旧墓地跡を駐車場となし舗装されている。このほかこの整地内には建築物の基礎コンクリートや、上下水道の残がい等があり、かなり土壌が攪乱されている。したがって遺跡の保存状態の良い西北附近が調査の対象となった。

まず遺構を確認するため、とこところのM<sub>6</sub> M<sub>1</sub> T<sub>8</sub> G<sub>5</sub>の東南部を調査したが、遺構は確認されなかった。I<sub>1</sub>の井戸も最近まで使用したものであった。遺構の中心はやはり、西北方に集中していた。発見された遺構は次の通りである。

第1号集石遺構(E<sub>1</sub>～F<sub>4</sub>) 拳大の集石がみられ、巾0.4m・長さ6mでF<sub>4</sub>付近でT状に広がり、巾が約2mとなる。出土遺物はなく、断面は礫の大きさだけ掘り凹めてつきかため、建物の基礎の下部構造を示す。近代の所産と考えられる。

第2号集石遺構(A<sub>1</sub>～B<sub>1</sub>) 拳大の集石で長さ約0.7m、出土遺物はなく、他に比べて大形の礫の集まりである。

第3号集石遺構(A<sub>1</sub>B<sub>1</sub>～A<sub>6</sub>B<sub>6</sub>) 拳大の集石で、長さ約8.5m、巾0.6m～1mで、B<sub>4</sub>～B<sub>6</sub>地点で攪乱され(電柱の吊線)ていたため中断されている。礫が土とつき固めた様な状態を示していた。B<sub>6</sub>中央より古銭残欠1枚を発見した。

第4号集石遺構(B<sub>1</sub>C<sub>1</sub>～B<sub>4</sub>C<sub>4</sub>) 拳大の集石、長さ約2.3m・巾約0.4mで、出土遺物はなく2号・3号・4号遺構とも平地面に構築してあった。

第5号集石遺構(B<sub>3</sub>C<sub>3</sub>～B<sub>4</sub>C<sub>4</sub>) 拳大の集石、長さ2.2m、巾0.4mで出土した。遺物はなく、断面は礫の大きさ程度(深さ約15cm)の皿状の断面を示した。従って3号、4号、5号は並列関係にある。

以上5カ所の集石からは、ほとんど遺物がなく、第3号跡から古銭の残欠が発見されたのみであった。遺構の性格は決定できなかった。

火葬墓(B<sub>1</sub>) 火葬墓の位置はB<sub>1</sub>グリットである。茶褐色土層の中で、明確な区画はない。直径約40cmの略円形状の上部に古銭が置かれ、その下部に人骨と炭化物が混合していた。古銭は元豊通宝である。墓跡に古銭が伴って検出された例は、中野市茶臼峯・安源寺の遺跡にみられる。

石鏝及び縄文粗製土器、その他の遺物はほとんどが火葬墓附近で、特に遺構との関係のない出土状態であった。

この外、地層の調査地点では、A<sub>1</sub>～K<sub>1</sub>では置土層(耕作土)・茶褐色土層・砂礫層と三層の地点と、M<sub>5</sub>グリットの黒色焼土層(火災残土)置土層(耕作土)・黒褐色土層・砂礫層と、M<sub>10</sub>グリットの置土から直接砂礫層となる個所など、場所により変動している。(池田実男)

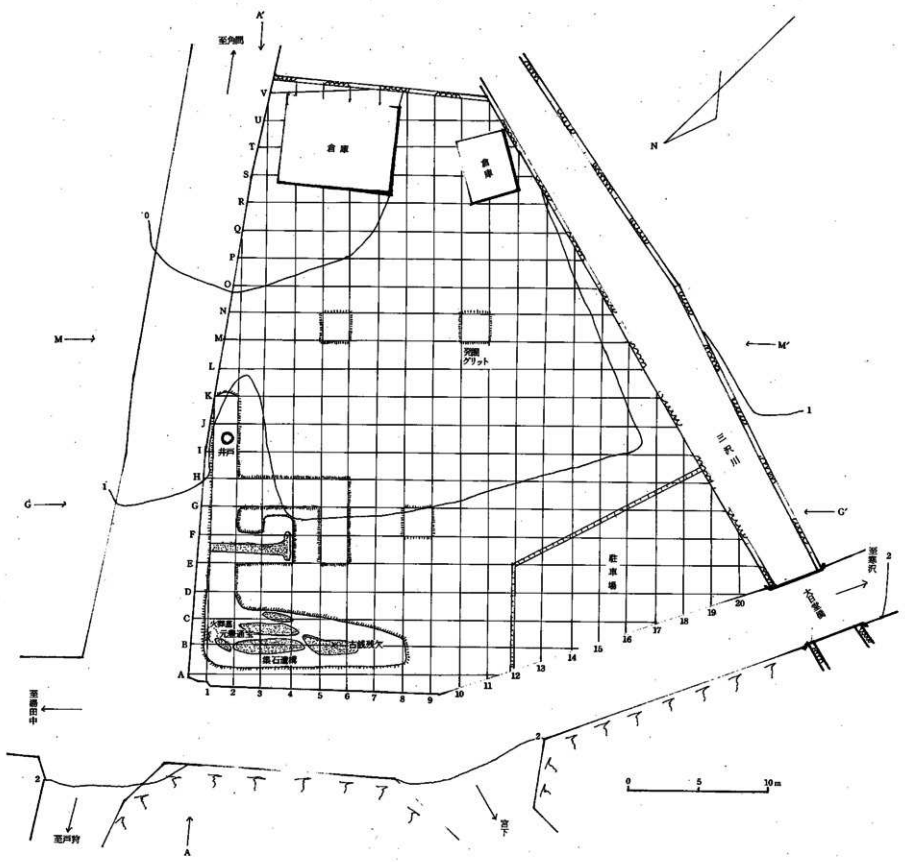
## 遺物

今回発見された遺物は次の通りである。

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1) 石鏃        | 1個          |
| 2) 土器 佐野式    | 2片          |
| 土師器          | 6片          |
| 3) 須恵質土器     | 1片          |
| 4) 中世陶器      | 1片          |
| 5) 木炭 採集せるもの | 10片         |
| 6) 人骨        | 11片         |
| 7) 古銭        | 元豊通宝1枚、残欠1枚 |
| 8) 鉄釘        | 2本          |

- 1) 石鏃 石質はチャート製で、二等辺三角形で挟いが浅い形式に属する。先端が少し欠けている、佐野式土器に伴う物と考えられる。
- 2) 土器 佐野式と考えられる2片は、無紋で実用的な器物の破片と考えられる。土師器片は角が磨滅しており他からの混入、或は攪乱のために不明の点が多い、器形その他細片のため、不明瞭である。
- 3) 須恵質土器 播鉢の口縁部の破片で器内が厚く、内側に放射状の溝がある。近くの発見例では、山の内町上条の中世住居跡(註1)安源寺火葬墓地(室町時代)、茶臼峯遺蹟(註2)建応寺跡(註3)等から検出されている。
- 4) 中世陶器 外が白く内側が黒色で、器形その他不明であるが、前記播鉢の破片とともに生活用具である。
- 5) 木炭片 火葬墓に伴うものを採集したもので、10片のうち輪炭9片、雜炭1片である。
- 6) 人骨 採集したものの11片で、外に細片が多数存在した。1体分と考えられる。これは火葬されたために残存したものである。
- 7) 古銭 元豊通宝は、前記火葬墓の副葬品と考えられる。また磨滅の程度はあまり進んでいない。この元豊通宝は北宗元豊年間、8年の間に鑄造されたものである。本邦での出土銭では、永楽銭出現以前では一二位の多量の出土を見ている。この流通の事実は、鑄造額と比例されると推定される。中野市田妻発見例(註4)新潟県中魚沼郡上郷村発見例(註5)など埋蔵年代によって差異が認められるが、出土銭の地方色と全国例が一致している。
- 8) 鉄釘 2本採集された。(1)は長さ5cm、一辺4mmの角釘で、(2)は長さ6.5cm、一辺長さ4mmの角釘である。(榎原長則)

- 註1. 金井汲次 北信における最近の出土古銭 高井創刊号
2. 中野市教育委員会 中野市草間茶臼峯遺蹟緊急発掘調査報告 高井30号
3. 中野市教育委員会 建応寺跡発掘調査 高井50号
4. 日比野丈夫 長丘村古銭調査「下高井」
5. 石沢三郎 他県の銭 第一次信濃第6巻第4号



岡部地蔵堂図 (横断図) - 地蔵堂・彌代山

# 発掘地



「発掘前の旧穂波農協」



「取りこわし後の農協敷地」



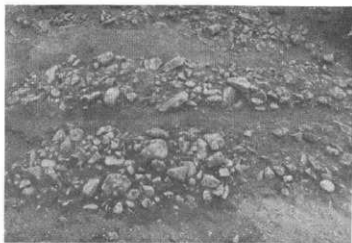


## 遺 構

→ 集石遺構発掘状況



→ 集石遺構

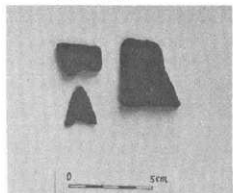


→ 遺跡中心部の断面

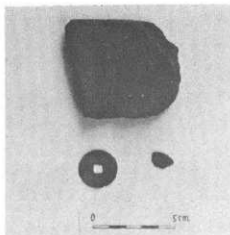
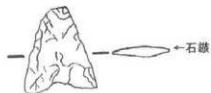


(写真 坂口孝雄)

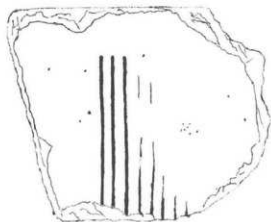
### 出土遺物



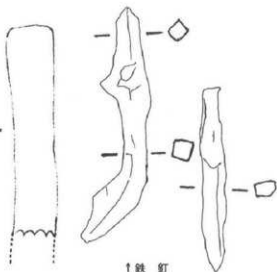
↑ 縄文時代遺物  
(土器・石楕)



↑ 中世の遺物  
(摺鉢片・古銭)

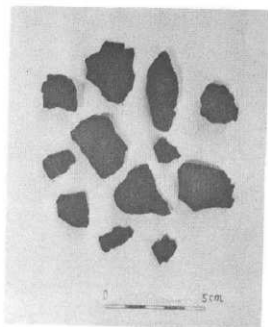


↑ 摺鉢内側

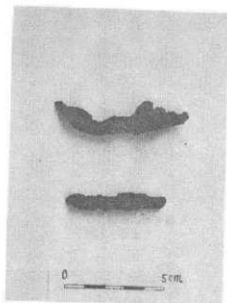


↑ 鉄釘

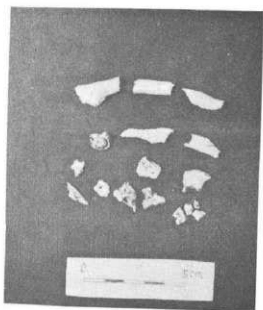
( 図 榎原長則 )



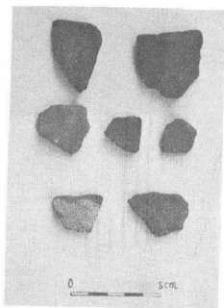
↑ 炭化物



↑ 鉄釘



↑ 骨片



↑ 出土土器(古代・中世)

今回の発掘では、縄文晩期の遺跡が南側への程度伸びているかが問題のひとつであった。しかし検出された遺構はなく、遺物としては石鏃一点のほか、数片の無文の粗質な土器片だけであった。

しかし新たに、中世を中心にした遺物・遺構の発見をみた。まず遺構としては火葬墓の存在である。土質の関係から、その区画は不明であるが、木炭片・人骨片と共に中国古銭の伴出をみた。人骨に古銭が伴出する例は、近辺では中野市茶臼峯・安源寺遺跡にもみられた。

今回の不思議な遺構のひとつに、拳大の集石が5か所検出されたことである。集石を取り除いてみたが、これといった遺物は全くなく、わずかに古銭の残欠が一点あったのみである。どのような性格なものかは、今後の研究としたい。

中世の遺物の特色として、須恵質土器の播鉢がある。町内上条よりも出土しており、近辺では中野市茶臼峯・安源寺・栗林・建応寺等の遺跡からも出土している。

このような中世の出土遺物は、佐野遺跡からは始めてではなく、第四次調査（宮沢家宅地の発掘）でも確認されている。しかし遺跡は地中深く、その性格は明らかでない。

今回の発掘地附近は、伝承として、中世の大日堂（佐野興隆寺の前身）と言われている。墓跡や出土物からみるならば、同時代の所産とみられる。しかし堂跡に直接関係するものは何等発見されていない。鉄の角釘も堂跡の関係か、墓跡の関係かは不明であり、今後の問題を残したい。

今回の調査は、日数も少なく、発見された遺物・遺構は少ないが、縄文時代の遺跡の範囲がさらに明確になったこと。中世の遺構・遺物の存在が明らかになったことは、より大きな収穫である。

（田川幸生）

---

### 佐野遺跡第六次発掘調査報告書

昭和56年8月20日印刷

昭和56年8月28日発行

編集 佐野遺跡第六次発掘調査団

発行 長野県山ノ内町教育委員会

印刷 カナイ美術印刷

---

